

2017年9月1日

ブルーイノベーション株式会社

小型無人機を使用した荷物配送の実現に向けて 「物流用ドローンポートシステム」検証実験を実施

9/6 長野県伊那市で新システム公開

ブルーイノベーション株式会社(以下、ブルーイノベーション)は、東京大学と共同で、小型無人機(以下、ドローン)の目視外飛行において安全な自動離着陸が可能な物流用ドローンポートシステムの開発を行っています。今般、ドローンポートによる機体姿勢の制御機能の検証と、ドローンポートシステムのクラウドによる遠隔監視・確認システムの検証を目的とした実証実験を、9月6日に長野県伊那市で実施いたしますので、お知らせします。

■背景・ねらい

過疎地や離島にドローン専用の小さなポートを整備し、食料品や医薬品を空から届ける新たな物流の仕組みをつくるため、ブルーイノベーションでは、東京大学とともに、長野県伊那市で物流用ドローンポートの実証実験を進めています。

本実証実験は、ドローンを常時目視しなくとも、自律かつ安全な離着陸や荷物の取卸しを可能とすることを目的としたもので、2017年度に全2回行われる実験のうち、第1回目のもので、昨年度に実施された実験では、開発中の物流用ドローンポートの各システムの有効性の確認やドローンポートを使用した一連の荷物輸送の流れの検証等が行われ、無事成功しました。今回の実証実験ではドローンポートによる機体姿勢制御の機能検証と、ドローンポートシステムのクラウドによる遠隔監視・確認システムの検証を行います。これにより、地上風速が強い場合や人・物の侵入等でドローンポートの安全が確保できない場合にドローンへ離着陸の中止命令が自動発信されるとともに集中管理PCで状態を監視することが可能となります。尚、第2回目の実験は11月頃を予定しており、より実用化に近い条件での実証実験を行う予定です。

本開発では、ブルーイノベーションがドローンポートシステムの開発、東京大学は機体制御の開発に各々取り組み、長野県伊那市に場所を提供いただいて進めているものです。開発された物流用ドローンポートは過疎地や離島における荷物配送の本格化に向けて2018年頃の普及を目指しています。

■実験概要

【日時】 9月6日(水)

【場所】 長野県伊那市長谷地区 (道の駅南アルプスむら長谷)

【内容】 検証ケース①:「ドローンポートによる機体姿勢制御の機能検証」(図1)

ドローンポートからの第三者の侵入の有無又は強風の有無が機体に通知された際に、安全に機体の停止制御及び停止制御を解除できるかどうかを検証します。

検証ケース②:「クラウドによる遠隔監視・確認システムの検証」(図2、3)

一連の荷物配送を実施する中において、開発したクラウドシステムを使用し、ドローンポートへの離着陸を遠隔で確認します。

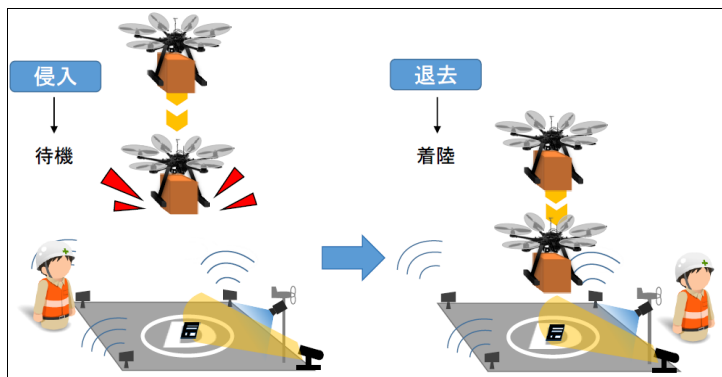


図1 検証ケース①イメージ



図2 検証ケース②イメージ

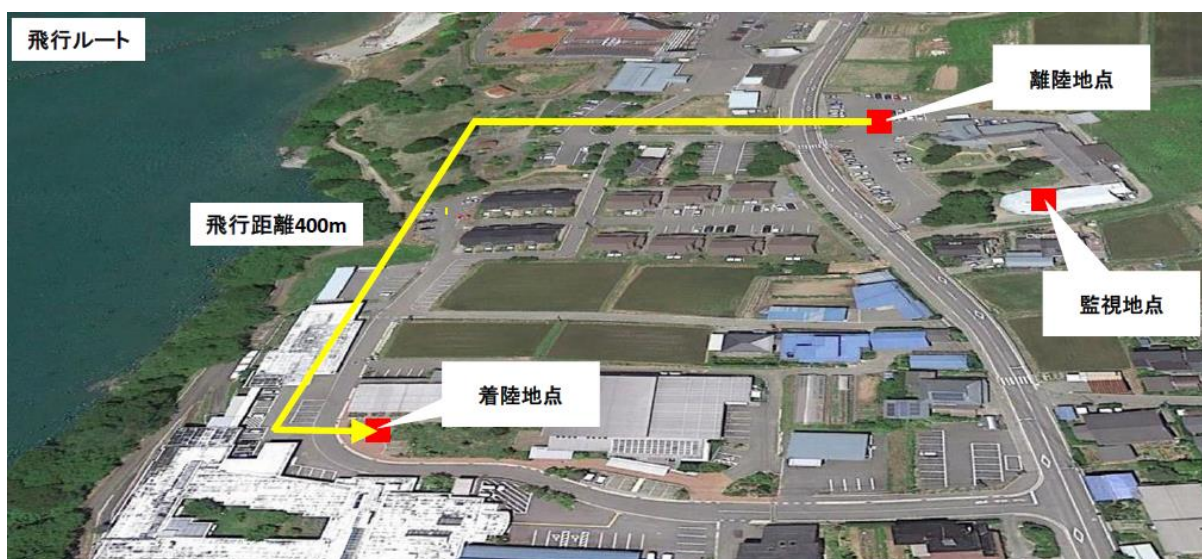


図3 飛行ルート*(検証ケース②)

*飛行ルートおよび監視地点は変更される場合がございます。

お問い合わせ先

ブルーイノベーション株式会社 経営企画室 広報 担当:遠藤

MAIL : media@blue-i.co.jp

TELL : 03-3293-8801